

# 羅臼岳

## チシマクモマグサ

日本百名山では、羅臼岳は利尻岳に次いで二番目の山として紹介される、北海道は知床半島の山。登山口と知られるのはニヶ所あり、半島の北側が岩尾別温泉からと、南側が羅臼温泉から。深田久弥は羅臼温泉から登った。当時は羅臼町から徒歩で一時間程、食料や寝具のない宿に着くとある。単に湯治だけの温泉宿であったようだ。

筆者が羅臼岳に登ったのは二〇一一年で、岩尾別温泉側か

ら。キク科の専門家・門田裕一博士とアザミ図鑑制作を目的とした登山であった。羅臼岳山頂近くにミヤマサワアザミという高山性のアザミが存在したからだ。

当時の記録を見ると、午前中小松空港から新千歳空港経由で中標津空港に降り立ち、昼頃に門田氏と合流した。レンタカーで岩尾別温泉に向い、翌朝登った。学生時代、福井県の冠岳に往復三日もかかっていた。と

ころが現在、北海道の最果ての山に、翌日登る事が可能になった。時代の進歩を感じざるを得ない。

ミヤマサワアザミの探索は難航したが、何とか発見できた。羅臼平に登る途中、斜面にマット状に広がるチシマクモマグサを見つけた。図鑑では大雪山に群れ咲く写真を見た記憶がある。本州中部の変種クモマグサは、花は似ているが、葉の先端が三裂する。北海道なら

ではの花に出逢うと、実に興奮する。

アザミ探索が目的であったので、他の花の撮影はスナップ的。その中でも正確に写っていた一枚である。

